

< その他、取組に特徴のある事例 >

鳥獣被害(猪・鹿)対策に対する取組

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	大分県別府市 <small>あまま</small> 天間			
協定面積 26ha	田(100%) 水稲	畑	草地	採草放牧地
交付金額 556万円	個人配分			0%
	共同取組活動 (100%)	水路及び作業道の草刈や維持管理活動等共同活動		19%
		鳥獣被害(猪・鹿)を防止するために、集落全体(農地全体)を防護柵で囲う共同作業		60%
協定参加者	農業者47人			集落の担い手による、農作業の受託組織の結成及び取組 21%

2. 取組に至る経緯

近年、農家の後継者不足や高齢化の進行により耕作放棄地が発生する傾向にあり、また、猪や鹿による農作物への被害も増大している状況であった。

このため、農地を守るため地域の担い手を集め、本事業の説明を行うとともに、現在抱えている問題を把握するためにワークショップを行った。

中山間地域等直接支払交付金を活用し、鳥獣被害防護柵の設置及び集落営農へ向けての共同機械への購入について話し合いを行った。

3. 取組の内容

集落全体の農地を取り囲むように鳥獣防護柵全長5kmを共同作業により設置、その維持管理についても共同で行っている。

水路や作業道の草刈及び維持管理についても、共同作業として取り組んでいる。

集落の担い手を選出し、オペレーターとして作業受託を始め、現在、共同機械の購入について話し合いを進めている。



猪・鹿防護柵



景観作物の作付け

[集落の将来像]

後継者不足や高齢化による耕作放棄地の発生を防ぐために、農業機械の共同購入や集落営農組織を結成し、地元産の農産物を使用した農産物の加工販売を行う。

猪や鹿による鳥獣害被害を防止するために、防護柵の設置を完成させる。

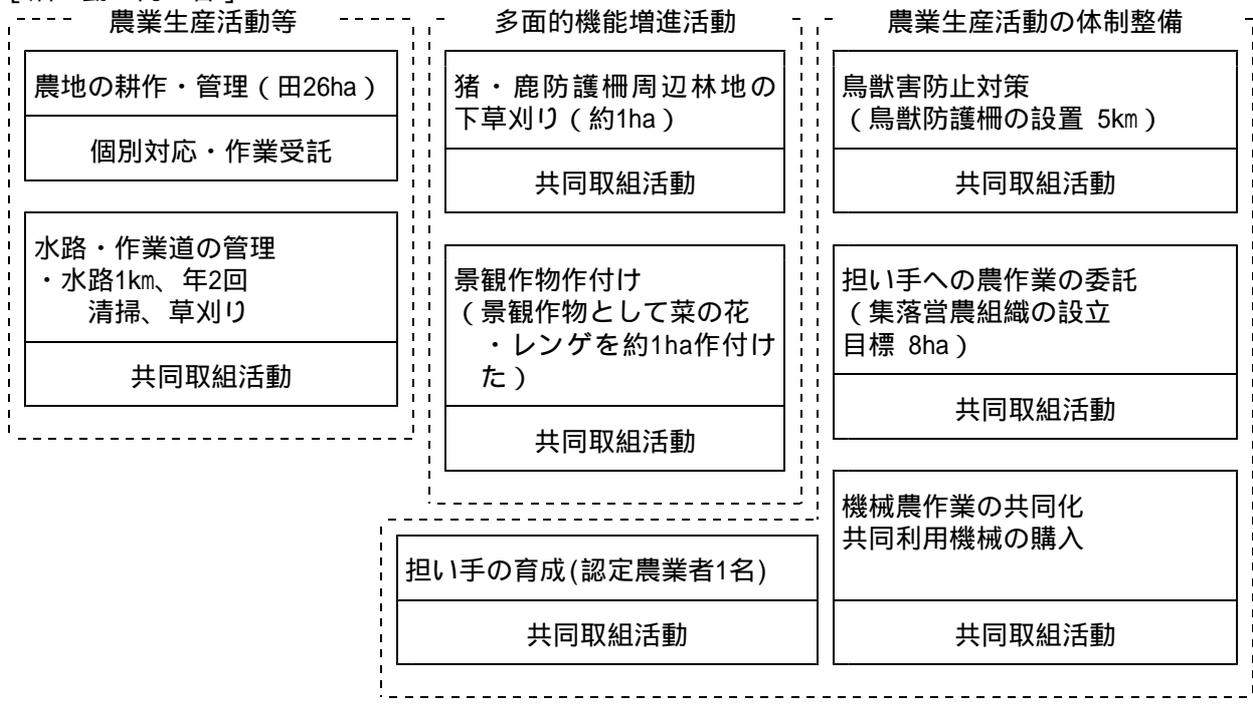
田舎のよさを理解してもらうために、都市住民との交流活動の実施や地域の伝統文化(かさ鉾おどり)の継承を行い、地域の活性化を図る。



[将来像を実現するための活動目標]

- 1 共同作業の実施（水路や管理道の草刈りや維持管理活動） 1年目～
- 2 猪・鹿防護柵の設置（1年目調査・2年～3年目設置・4年目問題箇所の点検・補修）
- 3 農作業共同機械の購入（4～5年目）
- 4 直売所の設置
- 5 伝統文化の継承活動（1年目～）
- 6 集落営農組織の設立（5年目）

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

猪・鹿防護柵の設置により、鳥獣被害で耕作放棄地となっていた農地が復旧された。集落全体で農地を守ることについての意識が向上し、取組が始まった。

集落営農組織の法人化に向けて、経理の一元化や農地の利用集積・ブロックローテーションなどが今後の課題となる。

[平成20年度までの主な成果]

個人による直売所が2ヶ所開設され、地域の農産物や農産物加工品の販売が始まった。

集落の担い手による先進地視察研修を行い、意識の向上が図られた。

担い手への作業委託（目標 2.65ha、H19実績 2ha）

集落を基礎とした営農組織の育成（目標 8ha、H19実績 4ha）